

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】令和 7 年 1 月 17 日(2025.1.17)

【公開番号】特開 2023-171307(P2023-171307A)

【公開日】令和 5 年 12 月 1 日(2023.12.1)

【年通号数】公開公報(特許)2023-226

【出願番号】特願 2023-80242(P2023-80242)

【国際特許分類】

D 0 6 M 13/188(2006.01)

10

【F I】

D 0 6 M 13/188

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 1 月 8 日(2025.1.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

以下の成分(A)及び(B)を含有する繊維処理剤。

(A)：ハンセンの溶解度パラメータの水素結合項 H が $18.3 \text{ MPa}^{1/2}$ 以下である、カルボキシ基又はその塩を少なくとも 1 つ有し、縮合環を有しない化合物

(B)：水

【請求項 2】

成分(A)が、以下の成分(A1)及び(A2)からなる群より選ばれる 1 以上の化合物である、請求項 1 に記載の繊維処理剤。

(A1) ハンセンの溶解度パラメータの水素結合項 H が $18.3 \text{ MPa}^{1/2}$ 以下である、カルボキシ基又はその塩を少なくとも 1 つ有し、縮合環を有しない芳香族化合物

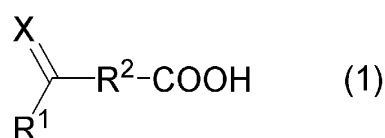
30

(A2) ハンセンの溶解度パラメータの水素結合項 H が $11.0 \text{ MPa}^{1/2}$ 以上 $18.3 \text{ MPa}^{1/2}$ 以下である、カルボキシ基又はその塩を少なくとも 1 つ有し、縮合環を有しない化合物（芳香族化合物を除く）

【請求項 3】

成分(A1)が以下の一般式(1)又は一般式(2)で表される化合物又はその塩である請求項 2 に記載の繊維処理剤。

【化 1】

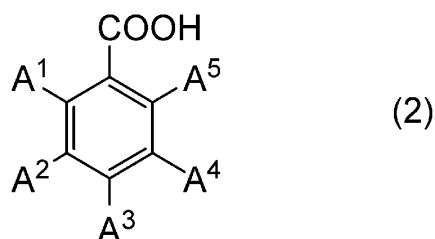


40

〔式中、 $= \text{X}$ はメチリデン基又はオキシ基を示し、 R^1 は水素原子、水酸基、又は置換基を有してもよいアルキル基、アリール基、アルコキシ基、アリールオキシ基若しくはアルキルオキシ基を示し、 R^2 は o-フェニレン基、m-フェニレン基、p-フェニレン基、ベンジリデン基、又は置換基を有してもよいアルキレン基を示す。ただし R^2 がアリール基を有しない場合は、 R^1 はアリール基、アリールオキシ基又はアラルキルオキシ基である。〕

50

【化 2】



〔式中、 $A^1 \sim A^5$ はそれぞれ独立して、水素原子、アセチル基、ハロゲン原子、又は炭素数 1 ～ 6 の直鎖若しくは分岐鎖のアルキル基、アルケニル基、アルコキシ基若しくはアルケニルオキシ基を示す。〕

10

【請求項 4】

成分(A)が安息香酸又はその塩を含む、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の繊維処理剤。

【請求項 5】

繊維処理剤の pH が 2.0 以上かつ 6.5 未満であり、繊維処理剤中における安息香酸又はその塩の含有量が、安息香酸（酸型）として 0.8 質量 % 以上 40 質量 % 以下である、請求項 4 に記載の繊維処理剤。

【請求項 6】

繊維処理剤の pH が 2.0 以上かつ 6.5 未満であり、繊維処理剤中における安息香酸又はその塩の含有量が、安息香酸（酸型）として 5.0 質量 % 以上 40 質量 % 以下である、請求項 4 に記載の繊維処理剤。

20

【請求項 7】

繊維処理剤の pH が 6.5 以上かつ 11.0 以下であり、繊維処理剤中における安息香酸又はその塩の含有量が、安息香酸（酸型）として 0.8 質量 % 以上 40 質量 % 以下である、請求項 4 に記載の繊維処理剤。

【請求項 8】

繊維処理剤の pH が 6.5 以上かつ 11.0 以下であり、繊維処理剤中における安息香酸又はその塩の含有量が、安息香酸（酸型）として 5.0 質量 % 以上 40 質量 % 以下である、請求項 4 に記載の繊維処理剤。

30

【請求項 9】

成分(A)として二種以上の化合物を含む、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の繊維処理剤。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

40

また、繊維処理剤中に成分(A)として二種以上の化合物が含まれる場合、成分(A)全体としての溶解度が上昇する傾向がある。このため、成分(A)全体の溶解性を向上して繊維処理剤の濁度を下げ、繊維を均一に処理できるようにし、それによって処理後の繊維表面の感触を向上させる観点から、繊維処理剤には成分(A)として二種以上の化合物を含むことが好ましい。繊維処理剤が成分(A)として二種以上の化合物を含む場合、その少なくとも一種は、好ましくは一般式(2)で表される芳香族化合物であり、より好ましくは安息香酸又はその塩である。成分(A)中に一般式(2)で表される芳香族化合物が含まれる場合は、成分(A)のうち一般式(2)で表される芳香族化合物の含有量が最も高いことが好ましく、安息香酸又はその塩が含まれる場合は、成分(A)のうち安息香酸又はその塩の含有量が最も高いことがより好ましい。

50

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0066】

〔式中、 R^7 は炭素数8～22の飽和若しくは不飽和の直鎖若しくは分岐鎖のアルキル基、 $R^{11}-CO-NH-(CH_2)_m$ - 又は $R^{11}-CO-O-(CH_2)_m$ - (R^{11} は炭素数7～21の飽和又は不飽和の直鎖又は分岐鎖のアルキル鎖を示し、 m は1～4の整数を示す)を示し、 R^8 、 R^9 及び R^{10} は独立して、炭素数1～4のアルキル基、炭素数1～4のヒドロキシアルキル基を示し、 An^- は塩化物イオン、臭化物イオン、メトサルフェートイオン又はエトサルフェートイオンを示す。〕

10

20

30

40

50